

第33回地盤震動シンポジウム

地震動予測地図を考える

地盤震動研究を耐震設計に如何に活かすか(その4)

<主催> 構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

地震調査研究推進本部は、2005年3月に「全国を概観した地震動予測地図」として確率論的地震動予測地図と震源断層を特定した地震動予測地図の2種類のマップを公表した。いずれも空間的な広がりにおいて相対的な地震危険度が地図上に表現されたものである。確率論的地震動予測地図は、起こり得るすべての地震を考えたときの日本全国各地域間の危険度を相対的に評価しており、建築基準法における地域係数と密接な関係にある。震源断層を特定した地震動予測地図は、特定の地震に着目した場合の地域的な危険度を地図上に表したものであり、設計入力地震動と密接に関係している。これらは多くの専門の研究者が議論を重ねて、地震・地震動に関する近年の知見を反映したものであり、今後耐震設計における地域性の考慮には重要な資料になると考えられる。

本シンポジウムでは、地震調査研究推進本部による地震動予測地図を中心に、近年の研究成果が活かされたシナリオ地震による予測や海外の事例を併せて紹介し、地域係数の問題や、設計に用いる地域波および告示スペクトルとの関係など、今後どのように予測地図を耐震設計に活かすかを広く議論する場を提供する。

日時 2005年11月18日(金) 10:00~17:30
場所 建築会館ホール(東京都港区芝5-26-20)

【プログラム】

記録: 佐藤吉之(竹中工務店)・飛田 潤(名古屋大学)

- 【午前の部】** 司会: 早川 崇(清水建設)・吉村智明(大成建設)
10:00~10:10 主旨説明 : 川瀬 博(当小委員会主査/九州大学)
- PART 1 地震動予測地図の事例紹介**
- 10:10~11:00 1. 全国を概観した地震動予測地図について: 藤原広行(防災科学技術研究所)
11:00~11:30 2. 海溝型地震の震源モデルと首都圏の強震動評価
: 瀧澤 一起(東京大学)
- 11:30~12:00 3. 内陸地殻内地震の強震動評価 - 上町断層を例として
: 関口春子(産業技術総合研究所)
- 12:00~12:30 4. 南海地震における近畿圏の強震動予測 : 釜江克宏(京都大学)
- 【午後の部】** 司会: 小山 信(建築研究所)・高井伸雄(北海道大学)
- 13:30~14:30 **特別講演: 仮)福岡県西方沖地震と地域係数**: 多賀直恒(福岡大学)
- PART 2 地震動予測地図の要素技術と耐震設計への活用**
- 14:30~14:50 1. 擬似動的震源モデルによる予測強震動の距離減衰特性
: 三宅弘恵(東京大学)
- 14:50~15:10 2. 地震動のばらつき評価 : 池浦友則(鹿島建設)
- <15:10~15:20 休憩>
- 15:20~15:40 3. 設計地震動への確率論的予測地図の活用と課題
: 石川 裕(清水建設)
- 15:40~16:00 4. 確率論的予測地図と地域係数 : 大川 出(建築研究所)
- 16:00~16:20 5. 設計用入力地震動と予測地図 : 野畑有秀(大林組)
- 16:20~17:20 **総合討論: 予測地図を耐震設計に活かすために**
司会: 加藤研一(当小委員会幹事/鹿島建設)・久田嘉章(工学院大学)
- 17:20~17:30 **まとめ** : 山中浩明(当小委員会幹事/東京工業大学)

*シンポジウム終了後懇親会を予定しています。

参加費: 会員5,000円、登録メンバー5,500円、会員外6,000円、
学生3,000円 (資料代3,000円含む)

定員: 200名

申込方法: 当日会場先着順

問合せ: 事務局研究事業部 伏見 TEL: 03-3456-2057